

剣山の名前の由来の一つは、剣山中腹にある大剣神社の御神体「大剣岩（御塔石）」が剣のように鋭いという説。
もう一つは源平合戦の後、四国に逃れた安徳天皇が頂上北端にある大岩「宝蔵石」の下に宝剣を埋納したという説。
剣山と呼ばれる以前はこれらの大岩にちなみ「石立山」あるいは「立石山」であったと推測されている。

剣山

剣山植物群落保護林

剣山と次郎笈との稜線の北側、祖谷川の源流部。ここは昭和30年徳島県が買い入れた天然林。当時は名頃が森林開発の最前線となっており、周囲の森林は大規模に伐採されていたが、この場所だけは残された貴重な原生林である。

剣山と次郎笈。二つの山は

一対の山にも見える。その昔、剣山も「次郎笈」と呼ばれていた時代がある。昔、「次郎」と「次郎」という二人の修馬金者が「笈（あし）」という背負い子を担ぎ、それぞれの山へ分かれて登ったことに由来するという話も伝わっている。

おしきみず

名水百選 剣山御神水
剣神社の御神体である御塔石の根本より湧き出ていて、昔から神の水として崇められている。石灰岩質のためミネラル分に富み、長期間腐らなず、病気を治す、若がえりの水ともいわれている。

深田久弥は「日本百名山で剣山について」「剣山の頂上には、森林帯を辛うじて残した山地で、その広々とした原は、風情を誘われるようなのびのびとした気持ちのいい所であった」と述べている。

安徳天皇が平氏再興を願って「天叢雲剣」（あめのむらくものつぎ）を納めた。

白髪山まで続くこの山道を明治の馬場たて、一帯で切り開いたのは熱心な剣山信者であった伊勢の安蔵と呼ばれた伊勢安佐門。

天気が良ければ大山や紀伊半島まで望むことが可能。四国第3位の高峰。

次郎笈（1930）奥檜戸へ

国道437号

見越

剣神社

境内に「天涯の花」記念碑がある。

剣山自然情報センター

見越駅 1420m

WC

トネリ

ツナギ

剣山リフト

昭和45年開通

西島神社

西島駅 1750m

テキサスゲート

刀掛けの松 枝頂神社

ケレグシヨウマ

古剣神社

三十五社

行場西神社

鎖

樹林の中の心地よい道

剣山の最上の課題は二ホンジカ対策。希少植物の絶滅を防ぎ、表面浸食による山腹崩壊になる前に、なんとかしなければ。



人に慣れているのか目の前で平然と植物を食べている。

二の森

新田次郎神社 御神体

一の森（1879）

一の森 ヒュッテ

シコクシバ

槍山植物群落保護林

ゴヨウマツ

展望良好

三嶺も見える

国有林

ホウ貝谷

↓槍戸山へ

源平の戦いの末に剣山の山裾に逃れた平家の武者たちが馬の調教をしていたことにちなみ、山頂一帯は「平家の馬場」と呼ばれる。山頂北端の宝蔵石には平家埋蔵金伝説もある。



昭和59年旧本沢村が「次郎笈の東山腹トバース（7）剣山との間に至る遊歩道を開設する計画。しかし山岳関係者の署名活動と本沢村の断絶でルートは稜線を経由するものに変更され、景観が守られた。「四国の1000m山」より

一の森から、下部と次郎笈の向こうに三嶺。みごとなロケーション。来てよかった。